

太田フレックス高等学校

日本語指導が必要な生徒を支援する体制づくりの試み

《日本語指導を始めたことによる変化 ～生徒や教員の声から～》

実施した授業を受けた生徒達の声です。

- ・ 漢字を少し覚えた。日本語を話せるようになった。
- ・ 先生方にインタビューをしたのが良かった。
- ・ 自分がわからなかったことが、授業でわかりました。
- ・ 天気の授業を覚えています。みんなと楽しく授業ができた。
- ・ この日本語の授業があったから、たくさんの漢字をしゃべるようになった。
- ・ 新しい単語を覚えられてよかった。
- ・ 授業がちょっとうるさいけど楽しかった。
- ・ 日本語を得意にしたい。
- ・ 前よりも日本語がしゃべれるようになってきました。

モデル校の指定を受けて取り組んできた、職員の声です。

- ・ 1年目の外国籍の生徒が、積極的に放課後の学習支援へ参加するようになった。
- ・ 外国籍の生徒に対する支援が充実。生徒にとっても教員にとっても非常にありがたい。
- ・ 職員間での「日本語指導」に対する意識の向上は絶対にあったと思う。
- ・ 「やさしい日本語」で生徒・保護者への通知をするなど、外国ルーツの生徒・保護者に配慮しようという雰囲気が生まれたと感じている。
- ・ 授業においてもユニバーサルデザインに配慮した授業展開とすることができた。学校の活性化につながった。
- ・ 板書やテスト問題にふりがなをふる、やさしい日本語で話す・書くなど、心がけるようになったと感じている。
- ・ 日本語指導の視点を意識する機会が増え、生徒への指導・支援の形を考えるようになった。
- ・ 支援の方法等を共有することで、生徒の実情にあった指導方法を共有することができた。
- ・ 真面目に日本語を習得しようとしている生徒への援助ができたのではないのでしょうか。
- ・ 日本語が上手になった生徒も増えたように思う。

